

人種や環境因子の差による萎縮型加齢黄斑変性の臨床的特徴についての解析

1. 研究の対象

2011 年 1 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日に当院で萎縮型加齢黄斑変性（地図状萎縮）と診断された方

2. 研究目的・方法

高齢者に発症する萎縮型加齢黄斑変性では、眼球の後極に位置する黄斑部の網膜や脈絡膜が加齢とともに地図状萎縮を起こし、徐々に拡大して中心視力が脅かされてしまう病気です。地図状萎縮の発症には人種差があると報告されていますが、加齢黄斑変性には加齢や遺伝的素因以外に、喫煙や紫外線暴露、食事要因といった環境因子の関連も報告されています。本研究は米国ハワイ州にある Hawaii Macula and Retina Institute との共同研究であり、「日本人」「ハワイ在住日系人」「ハワイ在住白人」の 3 群の比較し、①人種、環境要因、アジア人に多い近視、②地図状萎縮進行のリスク要因、あるいは、進行抑制要因を探索的に研究し、地図状萎縮の発症や進行の予防に資する知見を示すことを目的としています。

本研究はカルテの後ろ向き解析であり、大阪大学医学部附属病院眼科と米国ハワイ州に所在する Retina Consultants of Hawaii で選出された地図状萎縮患者を対象として行い、「日本人」「ハワイ在住日系人」「ハワイ在住白人」それぞれの群に該当する患者を選出して、臨床的特徴を中心に解析を行います。1 年以上あけて 2 回以上受診した記録がある患者さんに関してはそのそれぞれについて解析を行い、地図状萎縮の拡大率についても解析します。

研究期間：研究機関の長の実施許可日～2026 年 3 月 31 日

利用又は提供を開始する予定日：2024 年 1 月

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：基本情報（年齢、性別、人種、血圧）、病歴、投薬内容、既往歴、眼科検査所見（視力、眼圧、等価球面度数、眼底写真所見、光干渉断層計画像所見） 等

4. 外部への試料・情報の提供

解析は大阪大学眼科で行いますが、一部のデータは特定の関係者以外がアクセスできない状態で、個人情報that特定されない形にしてアメリカに所在する Hawaii Macula and Retina Institute に提供する可能性があります。アメリカにおける個人情報の保護に関する制度に関する情報については、個人情報保護委員会の WEB ページをご覧ください。

（URL：<https://www.ppc.go.jp/personalinfo/legal/kaiseihogohou/#gaikoku>）また、Hawaii Macula and Retina Instituteにおいて、個人が特定されない状態に処理された情

報は厳重に保管されます。

5. 研究組織（利用する者の範囲）

大阪大学大学院医学系研究科脳神経感覚器外科学講座（眼科学） 西田幸二

Hawaii Macula and Retina Institute、Retina Consultants of Hawaii Gregg T Kokame

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪大学大学院医学系研究科脳神経感覚器外科学講座（眼科学） 藤本聡子

吹田市山田丘2-2、TEL:06-6879-3456

研究責任者：

大阪大学大学院医学系研究科脳神経感覚器外科学講座（眼科学） 西田幸二

研究代表者：

大阪大学大学院医学系研究科脳神経感覚器外科学講座（眼科学） 西田幸二

個人情報管理責任者：

大阪大学大学院医学系研究科脳神経感覚器外科学講座（眼科学） 藤本聡子